

【学校向け・地域向け】【協力・実践形態：長期・単発】【本会ホームページへの掲載：あり・なし】

人のお役に立てた幸せ

今井 光子

[推進員認定期] 第8期

【所属】視覚障がい者サークル「いどばた」「アイの会」(視覚障がい者) 【活動エリア】熊谷市を中心とした県域

はじめに

私は視覚障害者です。子育て中に視力が落ち始め、だんだん見えなくなりました。4年前に自ら研修受講を希望し、推進員となりました。

私は外出する事が多いのです。市内ではずっとガイドさんと一緒に歩くのですが、出先で友人などがいてくれると大体は駅までのガイドをして頂き、そこからは駅員さんにお願いします。

バスを使って出かけた時には、まだ明るかったり、天気が良い日などは、駅入り口で降りて自宅まで単独歩行します。

体験記1「まちのバリアフリー化へのアクション」

去年の冬頃から、いつも単独歩行している歩道の工事があり、足場が変わってしまいました。誘導ブロックを探して進むのですが、工事のために途中からそれがあれません。足の感覚を基に歩くのですが、気がつくと交通量の多い車道に出ているのです。これを何回も繰り返していました。

なかなか進まない工事だったので、今年に入りとても困っている事・とても危険だと言う事を福祉課に話しました。

それから直ぐに担当者から連絡が来ました。その時に「誘導ブロックを付けるのに当事者は立ち合っているのですか？」と質問してみたら、「いいえ」の答えでした。「その時は是非 当事者を立ち合せてください。」とお願いしたら、数日後に連絡があり、その誘導ブロックを付けるに当たり、立ち合う事が出来ました。

この歩道にある誘導ブロックですが、途中のコース上にマンホールがあり、それをよけるためにコースが曲がっていたり、切れていたりと安心して歩く事が難しかったのです。折角付けて頂けるのなら、安心して歩けるようにと色々とお願いをしました。そのお陰で今は、歩道橋に向う途中までは歩きやすくなりました。

ただ、この歩道は県と国との道なのです、「ここから先は国に言ってください。」と言われました。歩道橋まではあと数メートルなのに、管轄が違うと言う事で、手がだせないです。どうして道は国・県・市などと分けるのでしょうかね。最近では道に迷っているのが分かると「大丈夫ですか？」の声がかかります。本当にありがたい事です。

体験記2「まちで声をかけられる幸せ」

四年くらい前のある日、一人で駅から自宅まで白杖を使いながら誘導ブロックの上を歩いていた時に、後ろから「すみませーーん」と誰かを呼ぶ声が聞こえました。私では無いだろうと思い、そのまま歩いて行くと、その声は段々近づいて来るのでした。えっ、私を呼んでいるの？と思い立ち止まりました。

すると息を切らせてその方がやってきました。

「すみません、呼び止めてしまって。実は娘が三ヵ月後に嫁ぐのです。娘は小さい頃から視覚に障害があり見えません。見えなくて生活が出来るのかが心配で、お聞きしたかったのです。」と言いました。私は「大丈夫ですよ、色々と時間はかかると思いますが、家事は出来ますよ。娘さんはご自分で決めた事ですから大丈夫ですよ。」とお話しました。

そして、その方が聞きたくと思われている様々な事をお話し別れました。

その方は車を運転中だったのですが、私が一人で歩いているのを見かけて、急いで駐車できる所を見つけて駆けつけて来るのでした。娘さんを思う大きな母心ですね。

それから三ヵ月後に、私が熊谷駅に着いて降りようしたら、乗車してくる人の中にその方がいらっしゃいました。

「先日は ありがとうございました。道で呼び止めてしまった者ですが。」

その声すぐにどなたかが分かりました。

「娘さんは嫁がれましたね。良かったですね、おめでとうございます。」

と、発車までのわずかな時間の会話でしたが、以前とは違いとっても嬉しそうでした。

またある時は、ヘルパーさんと歩いたら、声をかけられました。その方は、ご自分の眼が段々見えなくなってきたので、それを聞いて欲しかったようでした。

また別の時には、車の中から声をかけられ、道を聞かれました。一緒にいたヘルパーさんはその場所を知らなかったので、私が答えました。

私がまちを歩いていると、視覚に関して様々な方から声をかけられ、お話をすることが多いのです。

おわりに

町を歩いていると色々な経験をさせて貰います。人の心の暖かさや時には冷たさ。思いやりの深さなど、心に沁み入る事が沢山あります。

そして、こんな自分でもお役に立てる事があると、とっても嬉しくなり、生きてる喜びを実感します。